

提出済み要望書 2015 年度⑨オスプレイの飛行訓練即時中止と配備撤回(平和委員会)2015 年 5 月 30 日

宛先 安倍総理・防衛大臣など全閣僚 19 人・マスコミなど

国際婦人年連絡会

世話人 山口みつこ  
實生 律子  
紙谷 雅子

## 米軍機オスプレイの飛行訓練即時中止と配備撤回を求めます

国際婦人年連絡会は、「平等・開発・平和」の目標を掲げ、その実現に向けて活動しています。これまでも憲法 9 条の堅持と、日米地位協定の改定・在日米軍基地の縮小を掲げ、提言や要請をおこなってきました。

日米両政府は 5 月 12 日、米空軍の新型輸送機 CV22 オスプレイを、米軍横田基地に配備し、2021 年までに 10 機の態勢とすると発表しました。

横田基地がまたがる 5 市 1 町の人口は 50 万人を超え、基地周辺には多くの学校があります。このような人口密集地の真中に、特殊作戦部隊の基地があるということは明らかに異常な事態です。

すでに 24 機配備されている普天間飛行場では、日米間で合意したはずの飛行ルールが守られていない実態に加えて、騒音や事故についての批判の声は根強く、怒りを込めた反対の声は依然として大きいのが現状です。折しも、5 月 18 日に米海兵隊の MV22 オスプレイがハワイで墜落して死傷者が出た事故は、オスプレイの危険性を改めて示すものです。

中谷元・防衛相は横田基地では通常訓練に加え低空・夜間の飛行訓練を実施していくことを明らかにしています。横田基地に配備される CV22 は普天間の MV22 に比べても事故率が 3 倍高いと発表されています。このように安全性が懸念されるオスプレイの配備や訓練の分散は危険の拡散にほかなりません。地元はもとより多くの根強い反対の声に政府はなぜ向き合おうとしないのでしょうか。

新たなオスプレイの配備で米軍と自衛隊の共同訓練が一層活発化し、地球規模での一体化が進むこととなります。それはとりもなおさず憲法から大きく逸脱することを意味します。

私たちは、オスプレイ部隊の国外移転を米側に提起し、日本国民の不安を取り除くことが政府のなすべきことと考え以下のことを要望いたします。

**米軍機オスプレイの飛行訓練を即時中止し、**

**国内のいかなる基地にも配備しないこと**